

講演番号記入用
に4 cm あける。

白金錯体の光励起状態の放射光構造解析

講演要旨の見本（原寸）

（約 70%に縮小されます）

○播磨次郎、兵庫太郎
（兵庫県大院物質）

化学反応や物性を理解する時、基底状態の分子構造や結晶構造だけではなく、光励起状態にある分子や光誘起反応活性種（反応中間体）の立体構造を知ることが重要なことと考えられる。

単結晶試料にレーザー光を照射しても結晶中に生成する光励起分子の割合は高々数%程度と予想され、X線回折法を用いて光励起分子の三次元構造を決定することは困難と考えられた。このため、極低温において

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

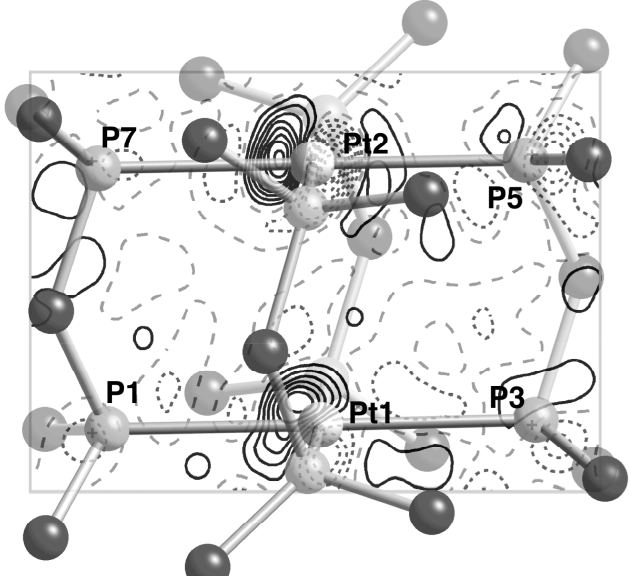


図1 白金錯体の光励起構造.

上下左右、余白を 2.5cm
あけて下さい。本文の
2段の間隔は 1cm あけ
て下さい。